

万有引力

クーロン力

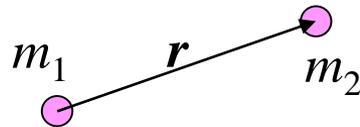
2が受ける力

$$F = -G \frac{m_1 m_2}{r^2} \frac{\mathbf{r}}{r}$$

$$F = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{q_1 q_2}{r^2} \frac{\mathbf{r}}{r}$$

万有引力による位置エネルギー

クーロン力による位置エネルギー



$$U(r) = -G \frac{m_1 m_2}{r}$$

$$U(r) = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{q_1 q_2}{r}$$

クーロン・ポテンシャル(クーロン・エネルギー)
(電気力による位置エネルギー)

どちらも $r = \infty$ (2つの質点, 点電荷が無限に遠く離れた時) が基準点 ($U = 0$)

重力は常に引力
位置エネルギーは負

電気力は**引力** / **反発力**
位置エネルギーは**負** / **正**
電荷が**異符号** / **同符号**

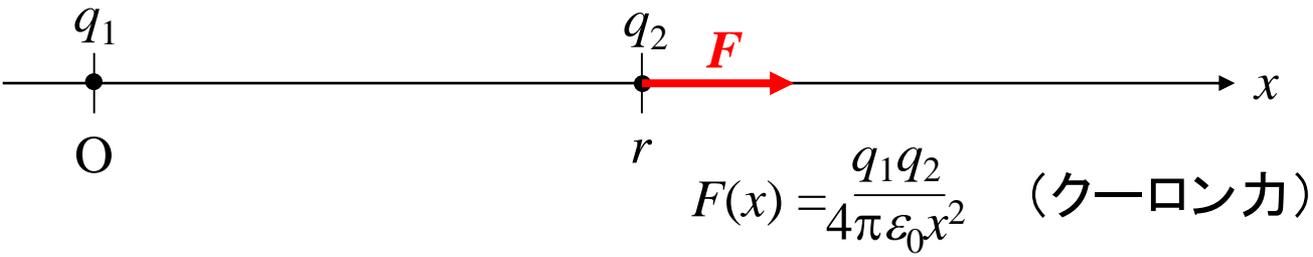
位置エネルギー

位置 r における保存力による位置エネルギーとは、
 r から基準点 r_0 (位置エネルギーが 0 の点) に移動するときに
保存力がする仕事のことである。

$$U(\mathbf{r}) = \int_r^{r_0} \mathbf{F}_{\text{保}}(\mathbf{r}) \cdot d\mathbf{s}$$

エネルギー: 仕事をする能力
(基準点に戻る時に保存力は $U(\mathbf{r})$ の仕事をすることができる。)

問題: 下の図のように電荷 q_1 が原点 O に固定されており、電荷 q_2 が $x = r$ にある。①
 この状態から電荷 q_2 が無限遠 ($x = +\infty$) まで移動するとき、
 クーロン力が電荷 q_2 にする仕事 W を求めよ。



$1/x^2$ の原始関数

$$\begin{aligned}
 W &= \int_r^\infty F(x) \, dx &= \frac{q_1 q_2}{4\pi \epsilon_0} \left[\frac{-1}{x} \right]_r^\infty \\
 &= \int_r^\infty \frac{q_1 q_2}{4\pi \epsilon_0} \frac{1}{x^2} \, dx &= \frac{q_1 q_2}{4\pi \epsilon_0} \left\{ 0 - \left(\frac{-1}{r} \right) \right\} \\
 &= \frac{q_1 q_2}{4\pi \epsilon_0} \int_r^\infty \frac{dx}{x^2} &= \frac{q_1 q_2}{4\pi \epsilon_0 r} = U(r)
 \end{aligned}$$

先ほどは、万有引力との対応から導いたが、
 位置エネルギーの定義より導いた。

$$U(\mathbf{r}) = \int_r^{r_0} \mathbf{F}_{保}(\mathbf{r}) \cdot d\mathbf{s}$$

前回スライド②参照

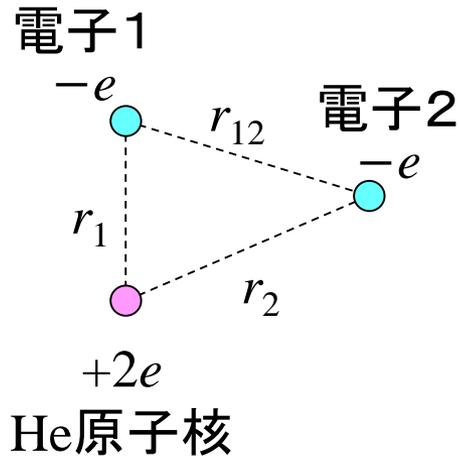
3つ以上の電荷が存在する時のクーロン・ポテンシャル

②

電気力 F は重ね合わせの原理に従う → **クーロン・ポテンシャル**にも適用できる。
(電気力による位置エネルギー)

例5:ヘリウム原子 (p206)

原子核と電子が左の図のような位置関係にあるときの全体のクーロン・ポテンシャルを求めよ。



$$U = \frac{(-e)(-e)}{4\pi\epsilon_0 r_{12}} - \frac{(-e)(+2e)}{4\pi\epsilon_0 r_1} - \frac{(-e)(+2e)}{4\pi\epsilon_0 r_2}$$
$$U = \frac{e^2}{4\pi\epsilon_0 r_{12}} - \frac{2e^2}{4\pi\epsilon_0 r_1} - \frac{2e^2}{4\pi\epsilon_0 r_2}$$

同符号の電荷同士の位置エネルギーは**正**
異符号の電荷同士の位置エネルギーは**負**
位置エネルギーの基準点は無限に離れた点

②の例5の問題で、 $r_1 = r_2 = r_{12} = r = 10^{-10} \text{ m}$ (原子の大きさ) のとき位置エネルギーを数値で答えよ。

$$U = \frac{e^2}{4\pi\epsilon_0 r_{12}} - \frac{2e^2}{4\pi\epsilon_0 r_1} - \frac{2e^2}{4\pi\epsilon_0 r_2}$$

$$U = \frac{e^2}{4\pi\epsilon_0 r} (1 - 2 - 2)$$

$$\frac{e^2}{4\pi\epsilon_0 r} = 9 \times 10^9 \frac{(1.6 \times 10^{-19})^2}{10^{-10}} = 1.4 \times 10^{-18}$$

$$U = -3 \times 1.4 \times 10^{-18} = -4.2 \times 10^{-18}$$

$$\underline{\underline{-4.2 \times 10^{-18} \text{ J}}}$$

原子1個分のエネルギーはたいへん小さい
 例: 水素原子のイオン化エネルギーは、 $2.2 \times 10^{-18} \text{ J}$

電子や陽子等の電荷の絶対値が素電荷の粒子が、原子の大きさ程度 (10^{-10} m) ④

離れているときの位置エネルギーの絶対値は、 $\frac{e^2}{4\pi\epsilon_0 r} = 1.4 \times 10^{-18}$ J である。

問題：上記のエネルギー、1モル分のエネルギーを求めよ。

$$1.4 \times 10^{-18} \times 6 \times 10^{23} = 8.4 \times 10^5 \text{ J} = 840 \text{ kJ}$$

結合エネルギー

H-H: 436kJ/mol

C-H: 413kJ/mol

C-C: 494kJ/mol

O-H: 461kJ/mol

左の化学結合(共有結合)は、
上記のような単純なものではないが
概ね同程度の値になっている。

注)分子によって多少値は変わる。

基準点以外の

任意の2地点を電荷 Q が移動する場合に電気力が行う仕事と位置エネルギー

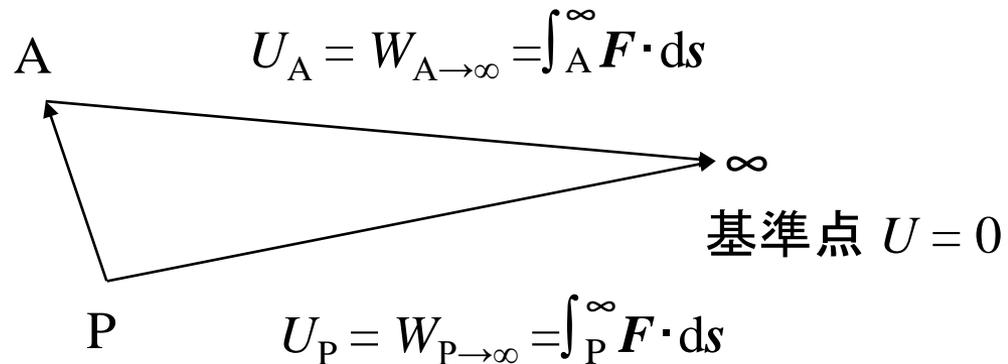
保存力はどんな経路を通っても同じ

$$W_{P \rightarrow A} = \int_P^A \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s}$$

$$= \int_P^\infty \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s} + \int_\infty^A \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s}$$

$$= \int_P^\infty \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s} - \int_A^\infty \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s}$$

$$= U_P - U_A$$



位置エネルギー $U(\mathbf{r})$ は、
電荷 Q が点 \mathbf{r} から基準点(∞)に移動
するときに電気力 \mathbf{F} が行う仕事

保存力の行う仕事は、
位置エネルギーの減少分に等しい。
位置エネルギーの減少分だけ、
保存力は仕事ができる。
電気力に限らず、
すべての保存力について成り立つ

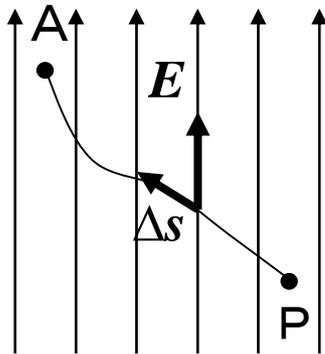
エネルギーは、仕事をする能力なので
仕事をした分、エネルギーは減少する。

$$W_{P \rightarrow A} = \int_A^P \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s} = U_P - U_A$$

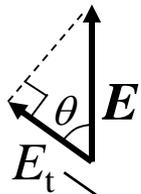
(保存力の行う仕事は、位置エネルギーの減少分に等しい。)

電気力に限らず、すべての保存力で成り立つ

上の式と電場 E との関係を考えてみる



電荷 Q が
一様電場中を
PからAまで
移動することを
考える



電場 E の経路の接線方向成分

$$E_t = E \cos \theta$$

t: tangent (接線)

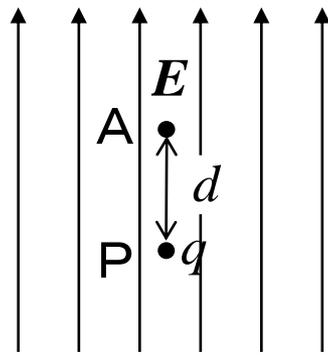
$$\mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = E ds \cos \theta = E \cos \theta ds = E_t ds$$

$$W_{P \rightarrow A} = \int_P^A \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s} = \int_P^A Q\mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = \int_P^A QE_t ds = U_P - U_A$$

図のように一様な電場 E 中を正の点電荷 q ($q > 0$) が点Pから点Aまで移動する ⑦

① 正電荷 q に作用する電気力の大きさと向きを答えよ。

答: 大きさ qE , 向き: 上向き(電場の向き)



② 正電荷 q が点Pから点Aまで移動するとき、正電荷に作用する電気力がする仕事 $W_{P \rightarrow A}$ はいくらか。

答: qEd $W = F \cdot s = qE \cdot d = qEd$

③ 点Pにおける正電荷 q の位置エネルギー U_P と
点Aにおける位置エネルギー U_A では、どちらが大きいか？
仕事によりできるのはどちらか？ エネルギー: 仕事をする能力

答: U_P

② どれだけ大きいか？

$$W_{P \rightarrow A} = \int_P^A \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s} = \int_P^A Q\mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = \int_P^A QE_t ds = U_P - U_A$$

答: qEd

電位

電位 : 単位正電荷(1C)あたりの電気力による位置エネルギー

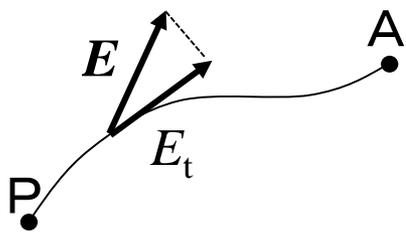
$$\text{電位 } V = \frac{U}{Q}$$

単位はボルト[V, J/C]

$$U = QV$$

$$W_{P \rightarrow A} = \int_P^A \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s} = \int_P^A QE \cdot d\mathbf{s} = \int_P^A QE_t ds = U_P - U_A = Q(V_P - V_A)$$

をQで割ると



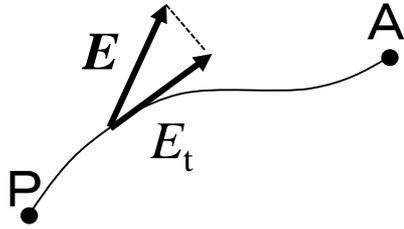
$$\int_P^A \mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = \int_P^A E_t ds = V_P - V_A$$

点Pと点Aの **電位差**

E_t を経路に沿って積分したもの

$V_P > V_A$ なら、点Pは点Aより電位が **高い** といい、
 $V_P < V_A$ なら、点Pは点Aより電位が **低い** という。

電位差でなく電位は？



$$\int_P^A \mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = \int_P^A E_t ds = V_P - V_A$$

上の図の点Aを基準点とし、その位置ベクトルを \mathbf{r}_0 とする。 $(V_A = V(\mathbf{r}_0) = 0)$
 点Pの位置ベクトルを \mathbf{r} とすると $(V_P = V(\mathbf{r}))$

$$\int_r^{\mathbf{r}_0} \mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = \int_r^{\mathbf{r}_0} E_t ds = V(\mathbf{r})$$

(復習) $\int_r^{\mathbf{r}_0} \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s} = U(\mathbf{r})$

基準点に戻るときに保存力 \mathbf{F} がする仕事が位置エネルギー

電気力の場合、 $\mathbf{F} = q\mathbf{E}$ なので

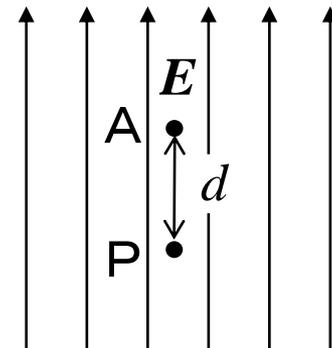
$$\int_r^{\mathbf{r}_0} q\mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = U(\mathbf{r}) \quad q \text{ で両辺を割ると}$$

$$\int_r^{\mathbf{r}_0} \mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = \frac{U(\mathbf{r})}{q} = V(\mathbf{r})$$

図のように一様な電場 E 中に点Pと点Aがある。

① 点Pの電位 V_P と点Aの電位 V_A では、どちらが高いか？

答: V_P



② どれだけ高いか？

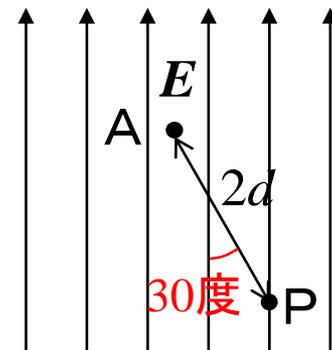
$$\int_P^A \mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = \int_P^A E_t ds = V_P - V_A$$

答: Ed

③ 点Aを基準点とする ($V_A = 0$) と、点Pの電位はいくら？

答: Ed

③ 右図の場合、点Aを基準点とすると、点Pの電位はいくら？



答: $\sqrt{3}Ed$

$$E \cdot \Delta s = E 2d \cos 30^\circ$$

電場の単位

$$F = qE$$

$$[\text{N}] = [\text{C}][\text{N/C}]$$

$$\text{電位差 } \Delta V = Ed$$

$$[\text{V}] = [\text{V/m}][\text{m}]$$

電場の単位は、N/C でもよいし、V/m でもよい。

その時、どちらの方が分かりやすいかで選べばよい。

電気力を議論しているときは N/C がよいし、

電位を議論しているときは V/m がよい。

逆を使っても間違いではないし、試験の際の減点もない。

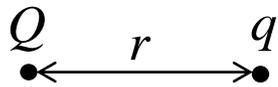
組立単位では $\text{m} \cdot \text{kg} \cdot \text{s}^{-3} \cdot \text{A}^{-1}$

電磁気学のすべての単位は **m, kg, s, A** の組み合わせで表現できる

MKSA単位系 (p7, 19章参照)

点電荷による電位

(復習) 点電荷 Q から距離 r の位置に点電荷 q がある。
このときのクーロン・ポテンシャル(電気力による位置エネルギー)は



$$U(r) = \frac{Qq}{4\pi\epsilon_0 r}$$

点電荷 q がある場所の電位: $V(r) = \frac{U(r)}{q}$ なので

点電荷 Q から距離 r の場所の電位: $V(r) = \frac{Q}{4\pi\epsilon_0 r}$

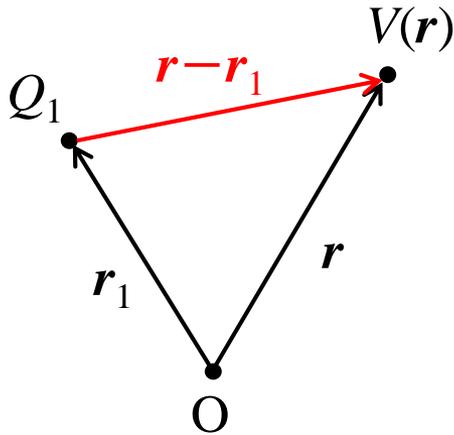
万有引力との対応
単位質量(1kg)あたりの
位置エネルギー
(特に定義されていない)

問題: 電荷 Q から無限に離れた点の電位はいくらか?

$$\lim_{r \rightarrow +\infty} V(r) = 0$$

無限に離れた点が基準点。
基準点の電位は 0

問題: 点 r_1 に電荷 Q_1 がある場合の点 r の電位 $V(r)$ はいくらか。⑬
(表現の問題です)



$$V(\mathbf{r}) = \frac{Q_1}{4\pi\epsilon_0|\mathbf{r}-\mathbf{r}_1|}$$

電位は
スカラー

複数の電荷 Q_1, Q_2, \dots, Q_N による電位

電場は各電荷がつくる電場の和(重ね合わせの原理)

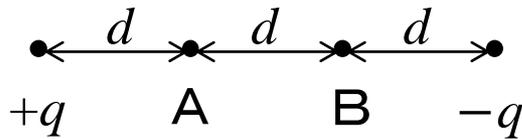


電位は各電荷がつくる電位の和

$$V(\mathbf{r}) = \sum_{i=1}^N \frac{Q_i}{4\pi\epsilon_0|\mathbf{r}-\mathbf{r}_i|}$$

問題: 下の図のような場合、A, Bの電位差 $V_A - V_B$ を求めよ。

$$V(\mathbf{r}) = \sum_{i=1}^N \frac{Q_i}{4\pi\epsilon_0|\mathbf{r}-\mathbf{r}_i|}$$



$|\mathbf{r}-\mathbf{r}_i|$: i 番目の
電荷 Q_i との距離

$$V_A = \frac{q}{4\pi\epsilon_0 d} + \frac{-q}{4\pi\epsilon_0(2d)} = \frac{q}{8\pi\epsilon_0 d}$$

$$V_B = \frac{q}{4\pi\epsilon_0(2d)} + \frac{-q}{4\pi\epsilon_0 d} = -\frac{q}{8\pi\epsilon_0 d}$$

$$V_A - V_B = \frac{q}{4\pi\epsilon_0 d}$$

電位は、基準点 ($V=0$ の点) がどこかで値が違う。(普通は無有限遠)
電位差は、どこが基準点であってもその値に違いはない。

問題: 電場は電位の勾配(にマイナスをつけたもの)である。

⑮

電位を r で微分して確かめてみよ。

$$E(r) = - \frac{dV(r)}{dr}$$

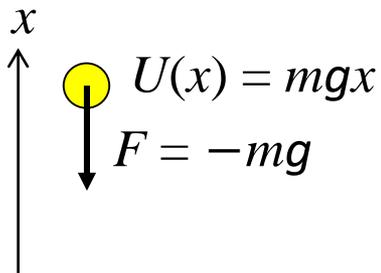
$$- \frac{dV(r)}{dr} = - \frac{d}{dr} \frac{Q}{4\pi\epsilon_0 r} = - \frac{Q}{4\pi\epsilon_0} \frac{-1}{r^2} = \frac{Q}{4\pi\epsilon_0 r^2} = E(r)$$

類似: 力(保存力) F は位置エネルギー U の勾配(にマイナスをつけたもの)である。

$$F(x) = - \frac{dU(x)}{dx}$$

例: 重力(保存力)と重力による位置エネルギー

問題: 位置エネルギー $U(x)$ を x で微分して確かめてみよ。



$$- \frac{dU(x)}{dx} = - \frac{d}{dx} (mgx) = -mg = F \quad F = - \frac{dU(x)}{dx}$$

$$E(r) = - \frac{dV(r)}{dr} \text{ の両辺に電荷 } q \text{ をかけると、 } qE(r) = - \frac{dqV(r)}{dr}$$

これは、電気力 $F(r) = - \frac{dU(r)}{dr}$ にほかならない。

また、保存力 F と位置エネルギー U の関係を積分形で表現すると

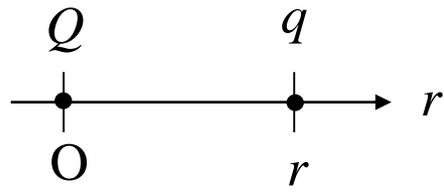
$$\int_r^{r_0} \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s} = U(r)$$

位置 r から基準点 r_0 に行くまでに保存力がする仕事が位置エネルギー $U(r)$

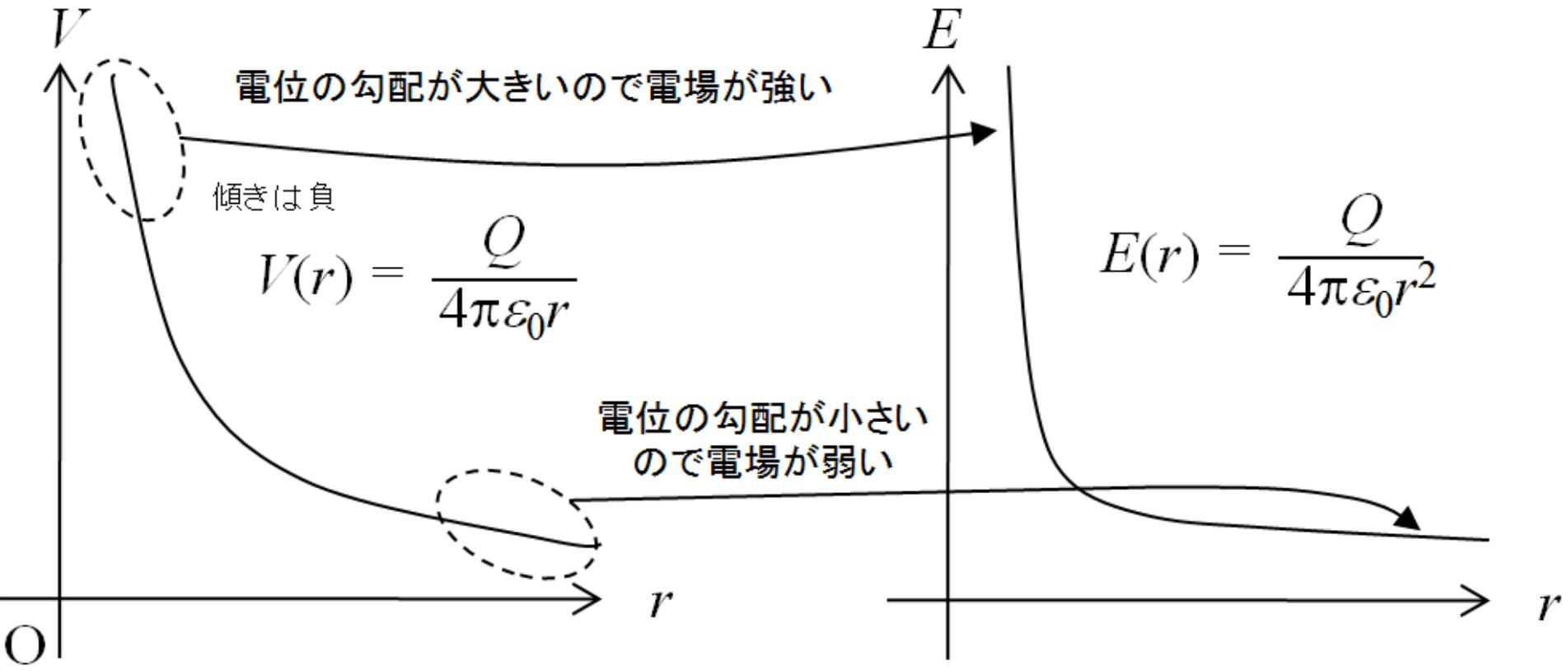
電場 E と電位 V の関係を積分形で表現すると

$$\int_r^{r_0} \mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = V(r)$$

点電荷の周囲の電位と電場



$$E(r) = -\frac{dV(r)}{dr}$$



等電位面

電位の等しい点を連ねたときにできる面

等電位線

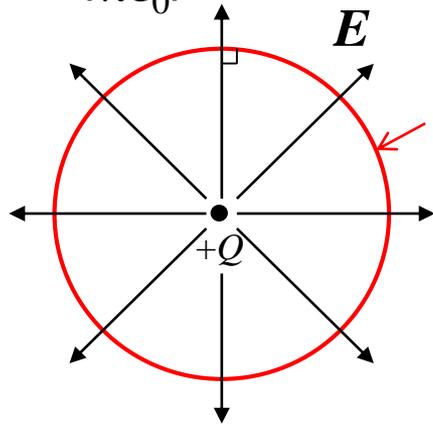
等電位面上の任意の曲線

例1: 点電荷の作る電場

例2: 平行板のつくる電場

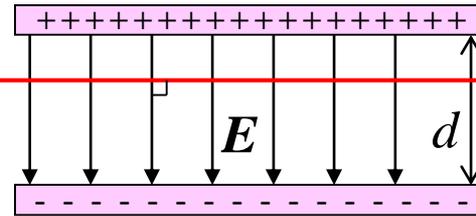
例3: 一般の電場
(複雑な電荷分布)

$$V(r) = \frac{Q}{4\pi\epsilon_0 r}$$

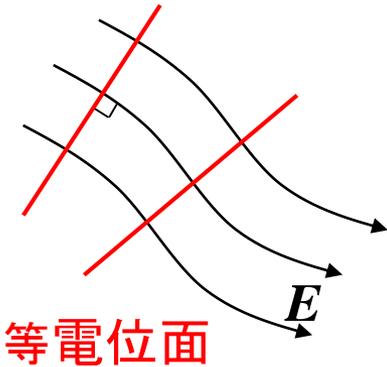


等電位面

電位: V_+



電位: V_-



等電位面

点電荷を中心とする球面
(等電位面は電場と直交)

平行板と平行な平面
(等電位面は電場と直交)

等電位面は
電場と直交

$$\text{電位差 } V_+ - V_- =$$

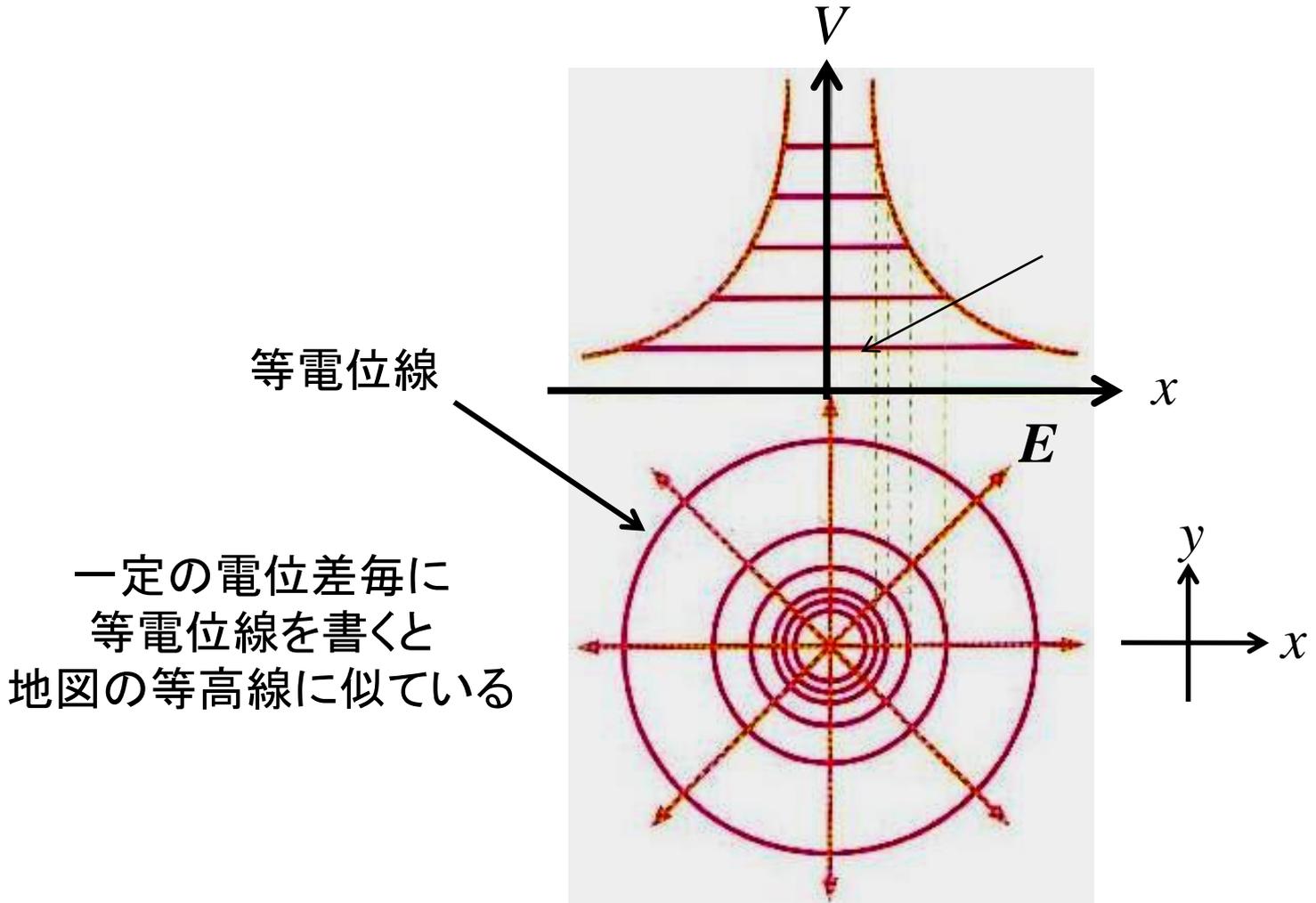
$$Ed$$

つづき

電場と等電位面は **直交** する。電場と等電位線も **直交** する。

直交しないと、等電位面にそった方向にも電場が存在する。(等電位と矛盾)

例: xy 平面の原点にある正の点電荷の周辺の電位 V



等電位線と地図の等高線の類似

対応関係

等電位線	等高線
電位	標高
電場	地面の傾斜
等電位線が混んでいる 電場が強い	等高線が混んでいる 傾斜が大きい
等電位線と電場は垂直	等高線と傾斜は垂直

問題: 電気力と万有引力の対応関係(前回スライド①⑥参照)において
電位に対応するものは何か?

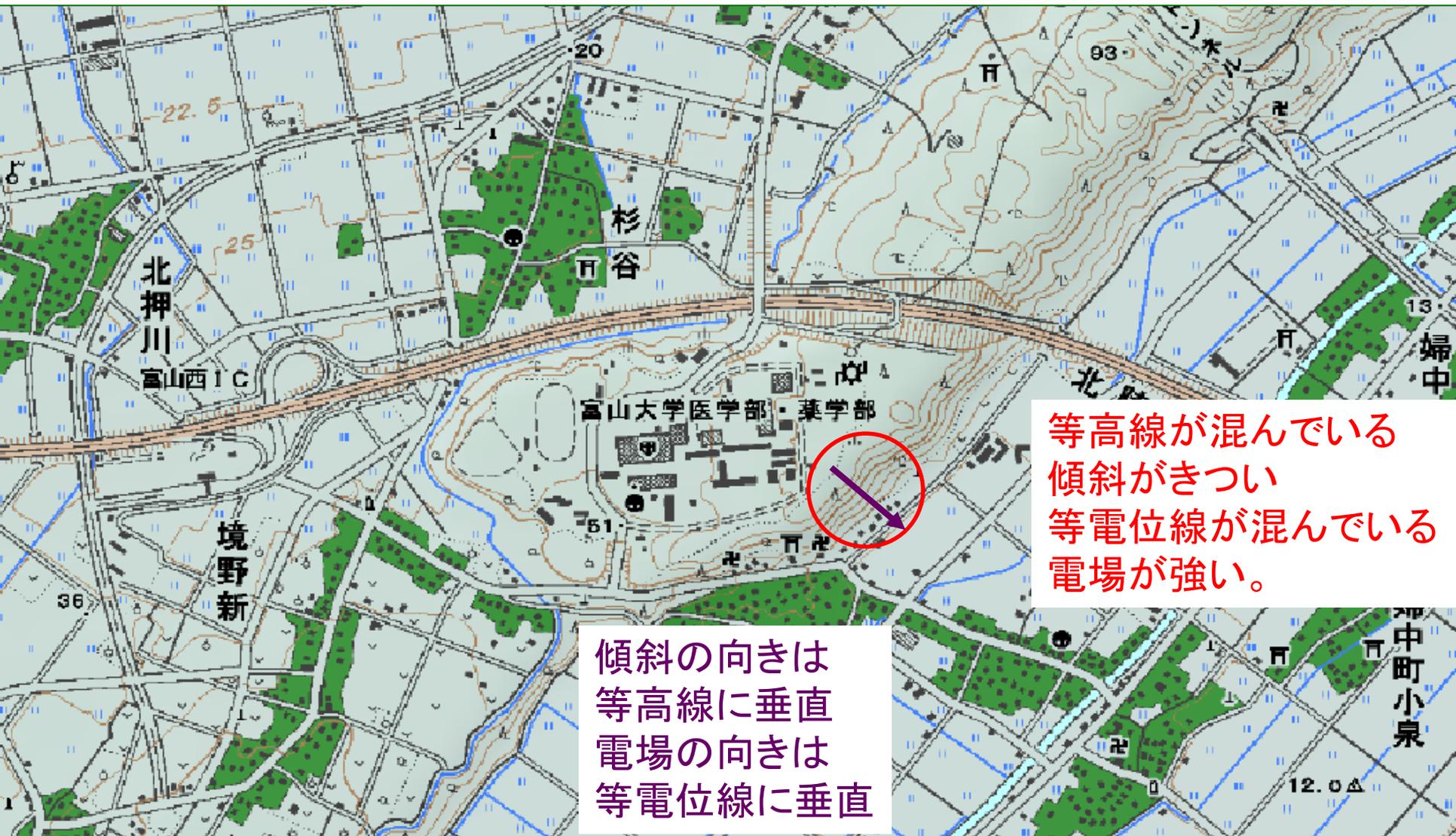
電位は単位**電荷**あたりの位置エネルギー

対応するものは、単位**質量**あたりの位置エネルギー(特に名称はない)

地上においては、位置エネルギーは mgh なので、 gh が対応する。

標高 $\times 9.8$ が対応しているので、等電位線と等高線が類似するのは当然

大学付近の地図



等高線が混んでいる
傾斜がきつい
等電位線が混んでいる
電場が強い。

傾斜の向きは
等高線に垂直
電場の向きは
等電位線に垂直

$$F(x) = -\frac{dU(x)}{dx}$$

3次元の場合の保存力 F と位置エネルギー U の関係

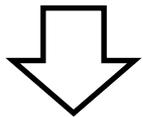
保存力 $F = (F_x, F_y, F_z)$ の各成分は、位置エネルギー U を偏微分することで導かれる

$$F_x = -\frac{\partial U}{\partial x} \quad F_y = -\frac{\partial U}{\partial y} \quad F_z = -\frac{\partial U}{\partial z}$$

読み: デルユー
デルエックス

もう少し、丁寧に書くと...

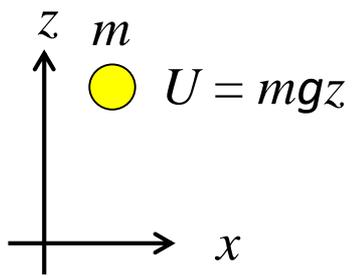
$$F_x(x,y,z) = -\frac{\partial U(x,y,z)}{\partial x} \quad F_y(x,y,z) = -\frac{\partial U(x,y,z)}{\partial y} \quad F_z(x,y,z) = -\frac{\partial U(x,y,z)}{\partial z}$$



一般に位置エネルギー U は位置 x, y, z の関数になっている。

x で偏微分するというのは、 y, z は定数と考えて x で微分すること。

問題: 質量 m の物体に作用する重力 F を位置エネルギー U を偏微分して求めよ。
ただし、 z 軸を図のように鉛直上向きにとる。



$$F_x = -\frac{\partial U}{\partial x}$$

$$= 0$$

$$F_y = -\frac{\partial U}{\partial y}$$

$$= 0$$

$$F_z = -\frac{\partial U}{\partial z}$$

$$= -mg$$

下向きに mg

$$F = (0, 0, -mg)$$

一般には保存力 F は位置 x, y, z の関数であるが、この場合は定数(どこでも同じ値)
 U の勾配がどこも一定だから

でんじろう先生のシャボン玉の実験の映像を見て、
どうやっているのか考えよう。



これまで4回の授業で勉強したので、わかると思います。

問題①なぜ手でシャボン玉を操れるのか。

問題②シャボン玉の破片をどうやって集めたのか。

次回やってみますが、うまくいかないかも。
バンデグラフ無しでもできます。興味のある人は挑戦してみたら